

【同時発表】

- ・国土交通本省・各地方整備局・北海道開発局
- ・徳島河川国道事務所 ・大洲河川国道事務所
- ・野村ダム管理所・高知河川国道事務所

平成18年11月15日
大洲河川国道事務所
野村ダム管理所

愛媛県から平成18年度「手づくり郷土賞^{ふるさと}（大賞部門）」
（国土交通大臣表彰）に2件が選ばれました！

愛媛県内
【大賞部門】

- ①野村ダム公園（愛媛県 西予市）
- ②木蠟と白壁の町並み（愛媛県 内子町）

愛媛県内以外の四国の表彰地域
【地域整備部門】

- ①多度津町再生水利用計画事業（香川県 多度津町）

【地域活動部門】

- ②美郷の「宝」を継承！（徳島県 吉野川市）
- ③ぶぶるパークみかもサア～！やらんで町おこし（徳島県 東みよし町）

【大賞部門：愛媛県以外の選定地】

- ④春野町アジサイ街道（高知県 春野町）



（内子町：木蠟と白壁の町並み）



（西予市：野村ダム公園）

四国からは、9件（地域整備部門：1件、地域活動部門：4件、大賞部門：4件）の応募があり、上記の通り6件（地域整備部門：1件、地域活動部門：2件、大賞部門：3件）が選定されました。

なお、選定された各物件に対し、下記の認定証伝達式で、四国地方整備局長等を通じて「手づくり郷土賞^{ふるさと}」の認定証及び記念品を伝達いたします。

- 日 時：平成18年12月7日（木）13：30～
- 場 所：高松合同庁舎 会議室 ※取材は自由に行ってください。

別添資料 愛媛の選定物件（概要版）

【問い合わせ先】

大洲河川国道事務所 副所長 山本 博久（内線205） 電話：0893-24-5185
野村ダム管理所 管理係長 岡田 浩孝（内線332） 電話：0894-72-1211

1. 「手づくり郷土賞」とは

地域の個性、魅力、活力を創出している良質な各種の社会資本や活動を広く発掘・紹介することにより、社会資本整備にあたっての創意・工夫を促し、個性あふれ活力のある地域づくりの一助とすることを目的に、昭和61年度から実施されてきた国土交通大臣表彰制度です。

2. 各部門について

【地域整備部門】

整備完成後、地域の個性・魅力を創出し、地域の魅力資源あるいはシンボルとして、多くの人々に利用され、かつ地域の理解と協力を得て良好に維持管理されている社会資本であり、市町村が主体的に維持管理を行っているものが対象となります。

【地域活動部門】

3年以上にわたり社会資本と関わりを持ちつつ地域の個性、魅力、活力を創出するとともに、地域づくりに多くの貢献や波及効果をもたらしている公益性を有する活動が対象となります。

【大賞部門】

「手づくり郷土賞」を受賞してからも永く良質な社会資本として認められ、現在も引き続き地域の住民に親しまれ、積極的に維持、活用されるなど地域に密着し、個性的で魅力的な地域の実現に寄与しているものが対象となります。

制度創設20年の節目にあたる平成17年度に新設され、本年度は昭和61年度～平成2年度に受賞したものを対象に募集・選定されました。

3. 選定について

市町村又は活動団体より応募された箇所は、各県で受け付け、四国地方整備局でとりまとめのうえ、「手づくり郷土賞」選定委員会の厳正な審査を経て選定されました。

「手づくり郷土賞」選定委員会		
委員長	鈴木 道雄	全国建設弘済協議会会長
委員	金澤 寛	(財)港湾空港高度化環境研究センター理事長
	金安 岩男	慶応義塾大学教授
	酒井 孝	(社)雪センター理事長
	田村 美幸	公共の色彩を考える会会長
	中村 良夫	東京工業大学名誉教授
	西村 幸夫	東京大学教授
	藤吉 洋一郎	大妻女子大学教授
	藤原 まり子	(株)博報堂生活総合研究所客員研究員
	宿里 正史	国土交通省総合政策局長

4. 選定箇所の紹介等について

選定された箇所は、パンフレットに取りまとめる他、四国地方整備局HP、地域づくりメールマガジン（にぎわい四国メールマガジン）に掲載し、広く紹介する予定です。

【大賞部門】

野村ダム公園

(愛媛県 西予市)



野村ダム公園



ダムまつり、朝霧湖マラソン大会

手づくり郷土賞の受賞をきっかけに、公園を中心とした地域づくりの気運が高まり、「野村ダムロッジ(H2)」「わんぱくランド(H4)」「シルク博物館(H6)」「ほわいとファーム(H12)」等次々と整備され、四季を通じて、市民の憩いの場、交流の場、環境学習の場、祭りやマラソン大会のイベント会場として多くの人々に利用されています。

【大賞部門】

木蝋と白壁の町並み

(愛媛県 内子町)



町並風景



防災訓練

手づくり郷土賞受賞後、町並を散策する人の増加により、地区住民の美観意識の高揚が図られ、地域を自ら守るという意識が出てきました。町並保存会と地域住民が協力して、町並みの保存を行っています。その結果、受賞当時は30万人だった観光客は今では、60万人近い人が訪れるようになりました。